

ボタニカルアートに思い…



高尚(?)な絵画制作を趣味として、「津山ボタニカルアートの会」(矢野啓二代表)の同好会に入会し、丸1年が経ったがこれまで思った成果が出なかった。

「ボタニカルアート」は、植物の生態や成り立ちを詳しく観察して、その姿を、実物大を基本に、形や色合いを克明に描写する絵画。透明水彩が一般的で対象物は花や草、木の葉、木の実など。背景は白一色とし、花入れ、鉢などの人工物は描かないのが約束事。

会の活動は、定例会が津山東公民館で月2回(第2、4木曜)、作品展は年に1回開催。他都市での展示会鑑賞や山野草の観察・植物の分類や学名調べの学習なども行っている。

いわゆる指導者はいず、初心者はベテラン会員らのアドバイスを受たり、仲間の作品を参考に腕を磨いている。また、任意で通信教育を受講し、テキストによって指導を受け、課題を仕上げ本部(東京)に送り、添削を受けている会員もいる。

成果を発表する展示会が1月30、31日に同公民館で行われた。12人が各3、4点出展。ずらっと並べた会員の秀作を前に筆者の作品はどう見ても劣る。デッサン、彩色、植物の質感、どれをとっても、その差は歴然。筆者は20代に絵(グラフィックデザイン、イラスト)にかかわる勉強や仕事をしてきた。目指した「プロで自立、は挫折したが、それなりに経験があると自負していた。だが作品を見比べて、基礎ができてないことを痛感した。

あるプロの作家先生曰く「あなたはなぜ、植物画を描くのか…自問自答して、ただの時間つぶしだとしたらデッサンはやめて、…塗り絵をお勧めします。」この言葉(一文)が重く心に響いてくる。

展示会では会員それぞれが友人・知人、家族などに案内状を送り、2日間で300人に近い来場者があった。会員は展示物の説明に追われた。筆者も会場で会えた人には、自分が未熟であることの言い訳を交えて説明をし、「私の作品以外はみな素晴らしい力作です」。

実際、誰が見てもその優劣は分かる。恥じではないが、自分の気持ちの中で、「恥ずかしい」という思いはあった。「自分はなぜ描くのか」と改めて自問するが、的確な答えは出ない。

にわかには技術が身に着くわけではないが、次の機会には人様に見てもらえる作品を制作できるように頑張りたい、という一心で臨むしかない。(M.Y)

味噌作りの作業

1月29日(金)は味噌作りの準備で、当日の30日には、雨が降るかもしれないので、ビニールの波板で屋根を作り、その下に三つの大鍋を並べ、湯沸かしのための小さな鍋に足し水を用意した。豆30kgを10kgずつ洗い、大鍋に入れて水を鍋一杯に入れて一晩ふやかしました。それから1年ぶりに味噌操り機を味噌小屋から出して、作業小屋に備え付けた。この作業には5人が参加し、午後1時半から4時ごろまでかかった。

当日の30日(土)には心配された雨も止み、朝8時半ごろから火をつけて豆を炊き始めました。1時間ぐらいで沸騰し吹きこぼれます。それから2時間吹きこぼれないように、足し水をしながら、とろ火で炊き続けます。2時間炊き続けると、ようやく豆は柔らかくなりました。火を止めて昼食の豆入りのカレーを総勢10人の参加者で美味しく頂きました。その間、熱い豆は徐々に冷めます。午後1時半ごろから、まだかなり熱い豆と米麴と塩と煮汁を入れながら、しっかり混ぜ合わせたものを味噌操り機に入れます。豆と麴と塩がよく混じりあったものを丸めて、味噌樽に空気が入らないように叩き付けます。そのようにして40kgの味噌が仕込まれました。それを三回続けて合計120kgの味噌が仕込まれました。

一夏寝かせておくと、今年の9月か10月にはおいしい味噌が出来上がります。まだ去年仕込んだ味噌が十分ありますので、新しい味噌ができるまで、去年仕込んだ味噌を楽しみましょう。1kg700円です。あちこちに宣伝して、去年の味噌は9月頃までに完売したいものです。おいしい味噌をできるだけ宣伝して頂けると有難いです。

3月のイベント情報

- カラオケを楽しむ会** 3月5日 ユーズボール
17時～19時(1500円)
- カタクリの花をめぐる会** 3月31日11時～